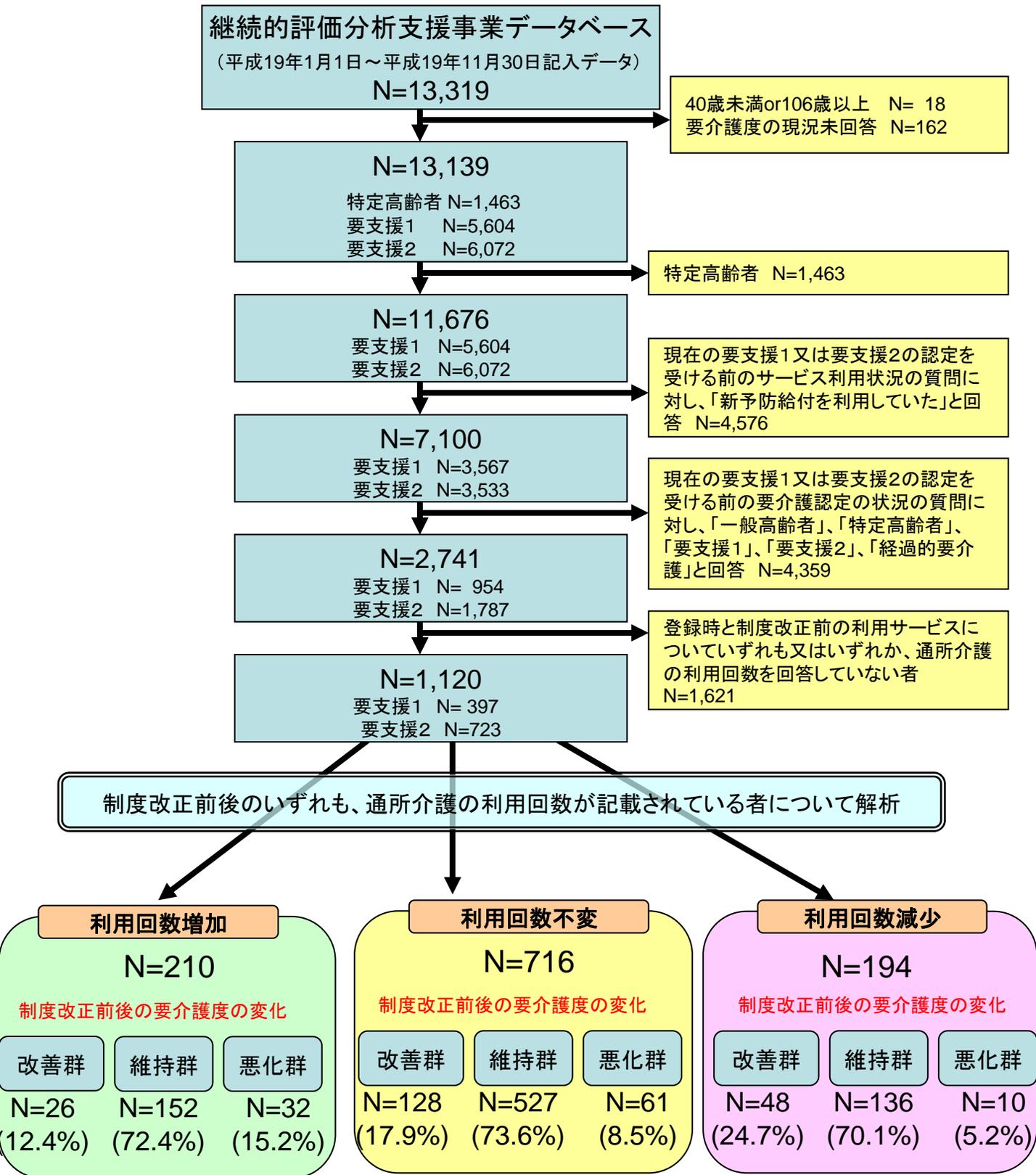


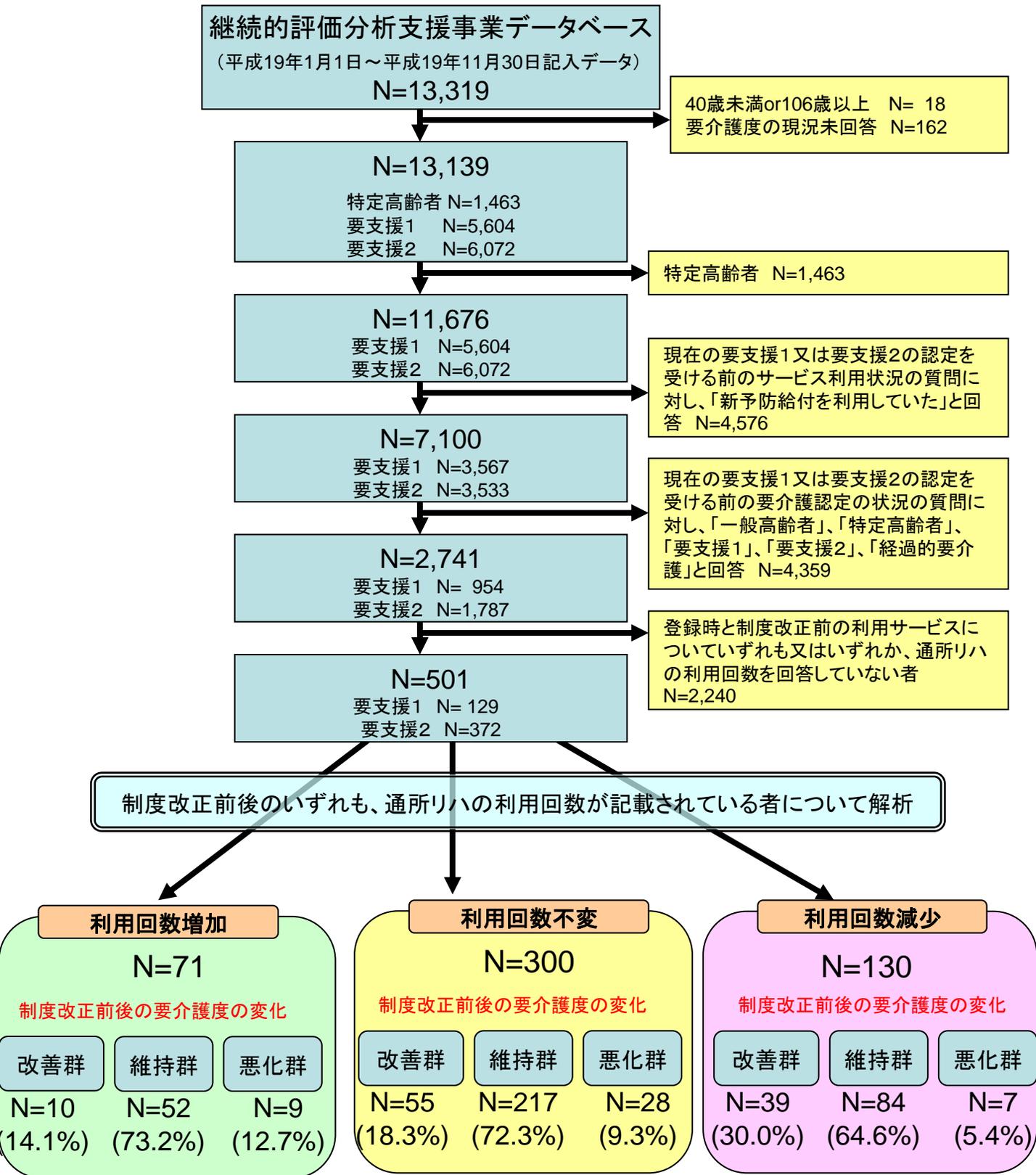
介護予防サービスの利用回数の変化ごとの介護度の変化について(図) 《通所介護の利用回数のみを使用》



※改正前の要介護度やサービス利用回数については、登録時に、対象者から聞くという方法で行った。

※カイ2乗検定(3×3)の結果、要介護度の変化(改善・維持・悪化)と利用回数の変化(増加・不変・減少)との間に統計学的に有意な関連があった。(p=0.0003)

介護予防サービスの利用回数の変化ごとの介護度の変化について(図) 《通所リハビリテーションの利用回数のみを使用》

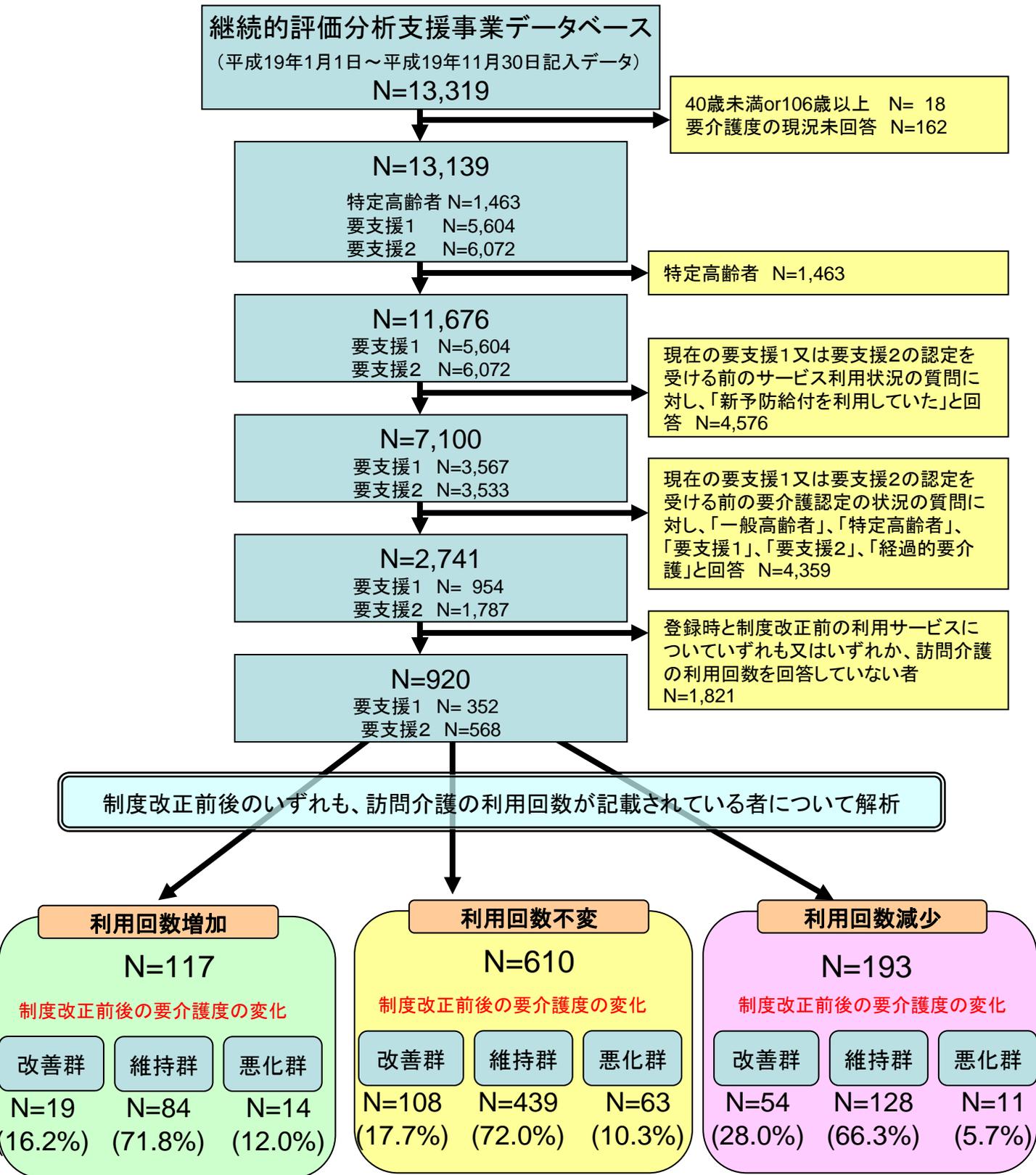


※改正前の要介護度やサービス利用回数については、登録時に、対象者から聞くという方法で行った。

※カイ2乗検定(3×3)の結果、要介護度の変化(改善・維持・悪化)と利用回数の変化(増加・不変・減少)との間に

統計学的に有意な関連があった。(p=0.0204)

介護予防サービスの利用回数の変化ごとの介護度の変化について(図) 《訪問介護の利用回数のみを使用》

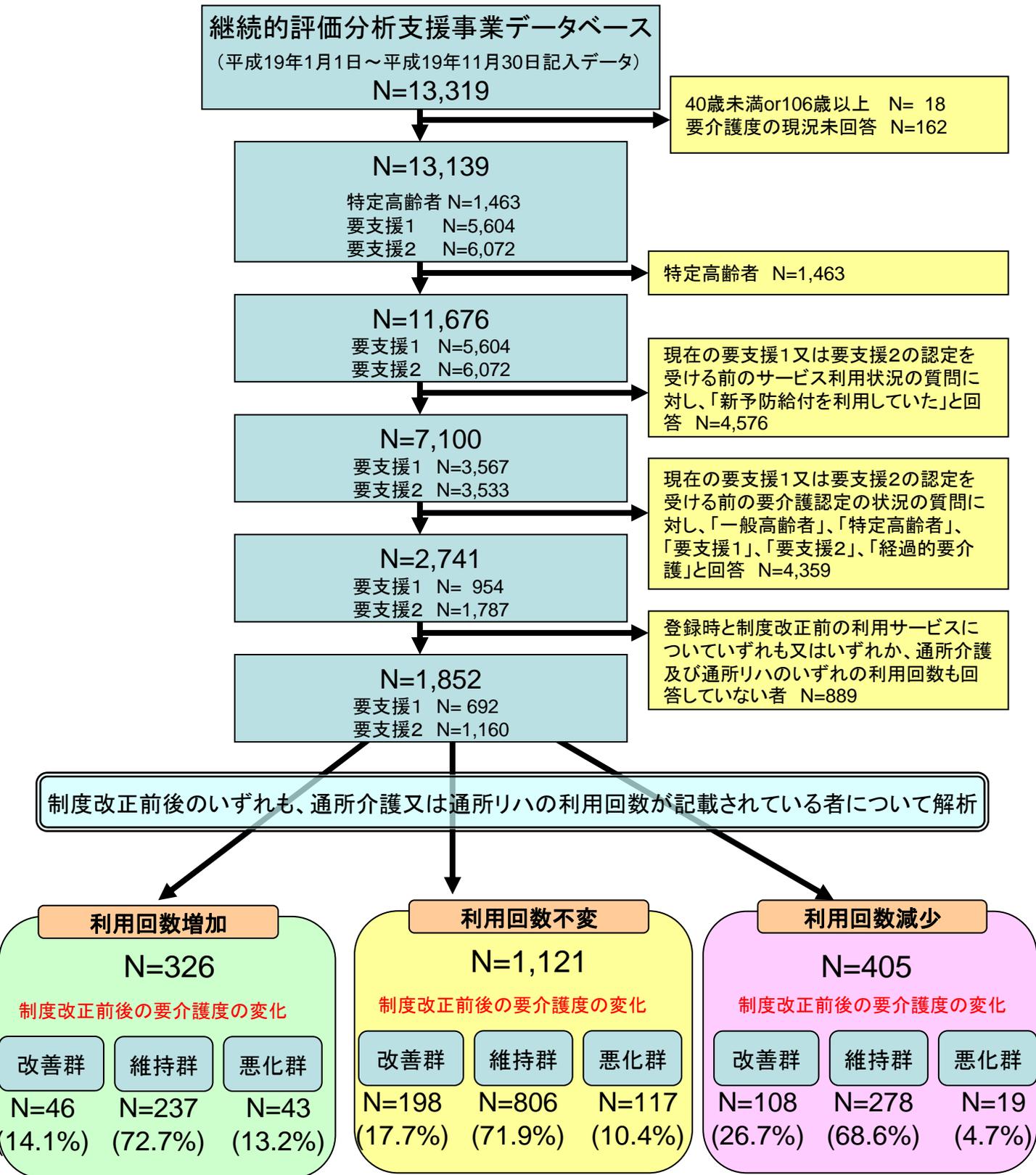


※改正前の要介護度やサービス利用回数については、登録時に、対象者から聞くという方法で行った。

※カイ2乗検定(3×3)の結果、要介護度の変化(改善・維持・悪化)と利用回数の変化(増加・不変・減少)との間に

統計学的に有意な関連があった。(p=0.0093)

介護予防サービスの利用回数の変化ごとの介護度の変化について(図) 《通所介護及び通所リハビリテーションの合計利用回数を使用》

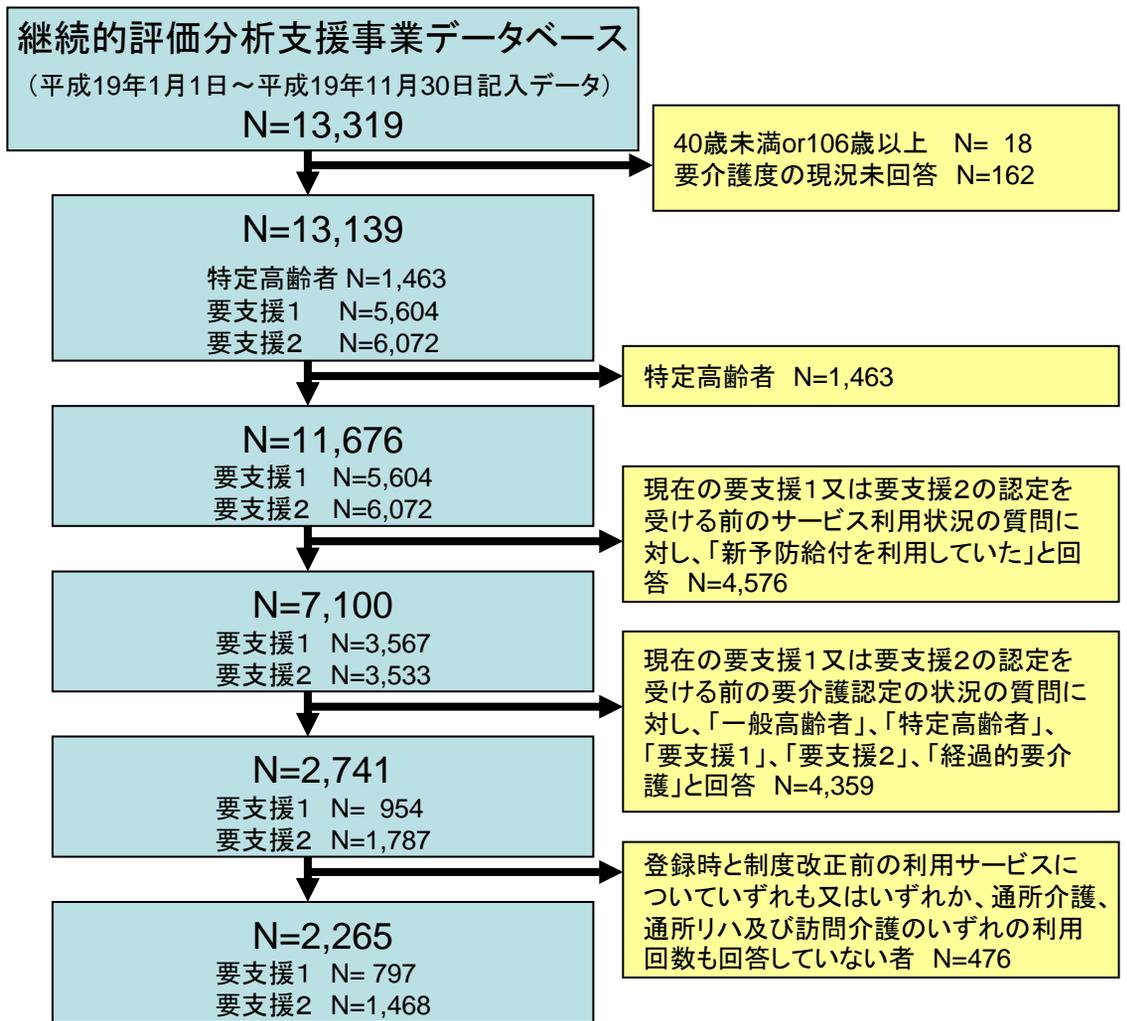


※改正前の要介護度やサービス利用回数については、登録時に、対象者から聞くという方法で行った。

※カイ2乗検定(3×3)の結果、要介護度の変化(改善・維持・悪化)と利用回数の変化(増加・不変・減少)との間に統計学的に有意な関連があった。(p<0.0001)

介護予防サービスの利用回数の変化ごとの介護度の変化について(図)

《3サービスの合計利用回数を使用》



制度改正前後のいずれも、通所介護、通所リハ又は訪問介護の利用回数が記載されている者について解析

利用回数増加
N=365

制度改正前後の要介護度の変化

改善群	維持群	悪化群
N=50 (13.7%)	N=265 (72.6%)	N=50 (13.7%)

利用回数不変
N=1,344

制度改正前後の要介護度の変化

改善群	維持群	悪化群
N=239 (17.8%)	N=965 (71.8%)	N=140 (10.4%)

利用回数減少
N=556

制度改正前後の要介護度の変化

改善群	維持群	悪化群
N=147 (26.4%)	N=383 (68.9%)	N=26 (4.7%)

※改正前の要介護度やサービス利用回数については、登録時に、対象者から聞くという方法で行った。
 ※カイ2乗検定(3×3)の結果、要介護度の変化(改善・維持・悪化)と利用回数の変化(増加・不変・減少)との間に統計学的に有意な関連があった。(p<0.0001)